

[答申] 福岡市民病院における感染症医療について 資料編

《目次》

- 1 福岡市民病院における感染症医療の沿革等について
- 2 新型コロナウイルス感染症禍における市民病院の対応の「検証」

【参考】

- 福岡県における新型コロナウイルス感染症の動向

※本資料においては、便宜的に期間を以下のとおり区分する

- 第1期：令和2年2月から5月末まで
- 第2期：令和2年6月から10月末まで
- 第3期：令和2年11月から令和3年3月末まで
- 第4期：令和3年4月から6月末まで
- 第5期：令和3年7月から9月末まで

令和4年2月

福岡市病院事業運営審議会

1 福岡市民病院における感染症医療の沿革等について

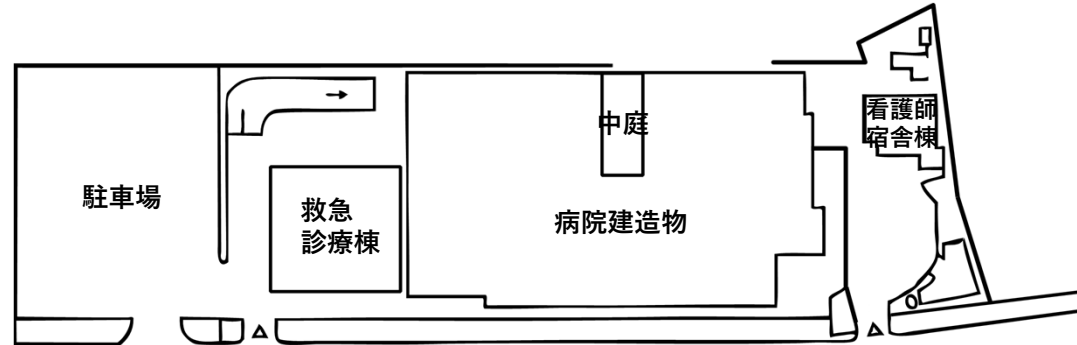
▷福岡市民病院の概要

【概要】

開院日	平成元年 5 月 1 日		
開設者	地方独立行政法人 福岡市立病院機構 理事長 原 寿郎		
施設名	地方独立行政法人 福岡市立病院機構 福岡市民病院		
院 長	桑野 博行		
所在地	〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番1号		
病院の特色	ア. 医療計画における4疾病（がん、脳卒中、心血管疾患、糖尿病）への対応を中心に、高度専門医療を提供している。 イ. 脳神経・脳卒中センター（脳神経外科、神経内科）、ハートセンター（循環器内科）、ICU（集中治療室）、SCU（脳卒中ケアユニット）、CCU（冠動脈疾患治療室）を設置し、地域に不足する高度救急医療を提供している。 ウ. 地域特性により患者が多い「肝炎、肝硬変、肝癌」の治療、並びに腎臓、脊椎等の疾患に対し、専門的医療を提供し、地域におけるそれぞれのセンター的役割を果たしている。 エ. 新型インフルエンザ等対策特別措置法における「指定地方公共機関」の指定医療機関として感染症医療機能の充実を図っている。		
診療科目	内科、消化器内科、肝臓内科、糖尿病内科、脳神経内科、循環器内科、腎臓内科、感染症内科、外科、消化器外科、肝臓外科、整形外科、脳神経外科、血管外科、眼科、麻酔科、放射線科、救急科、リハビリテーション科（19診療科） （ハートセンター、糖尿病センター、腎センター、脳神経・脳卒中センター、消化器センター、食道疾患センター、肝・胆、膵センター、総合診療部）		
病床数	[開院当初] 2 0 0 床		[令和 3 年 5 月 1 日現在] 2 0 4 床
	5 階	35床	5 階・感染症病棟 37床（うち感染症病床4床）
	6 階病棟	55床	6 階病棟 52床
	7 階病棟	55床	7 階病棟 52床
	8 階病棟	55床	8 階病棟 49床
			ICU 4床
			SCU 6床
			CCU 4床
職員数	3 9 7 名（令和 3 年 5 月 1 日現在） ※正規職員のみ 医師56名、看護師250名、メディカルスタッフ69名、事務22名		

1 福岡市民病院における感染症医療の沿革等について

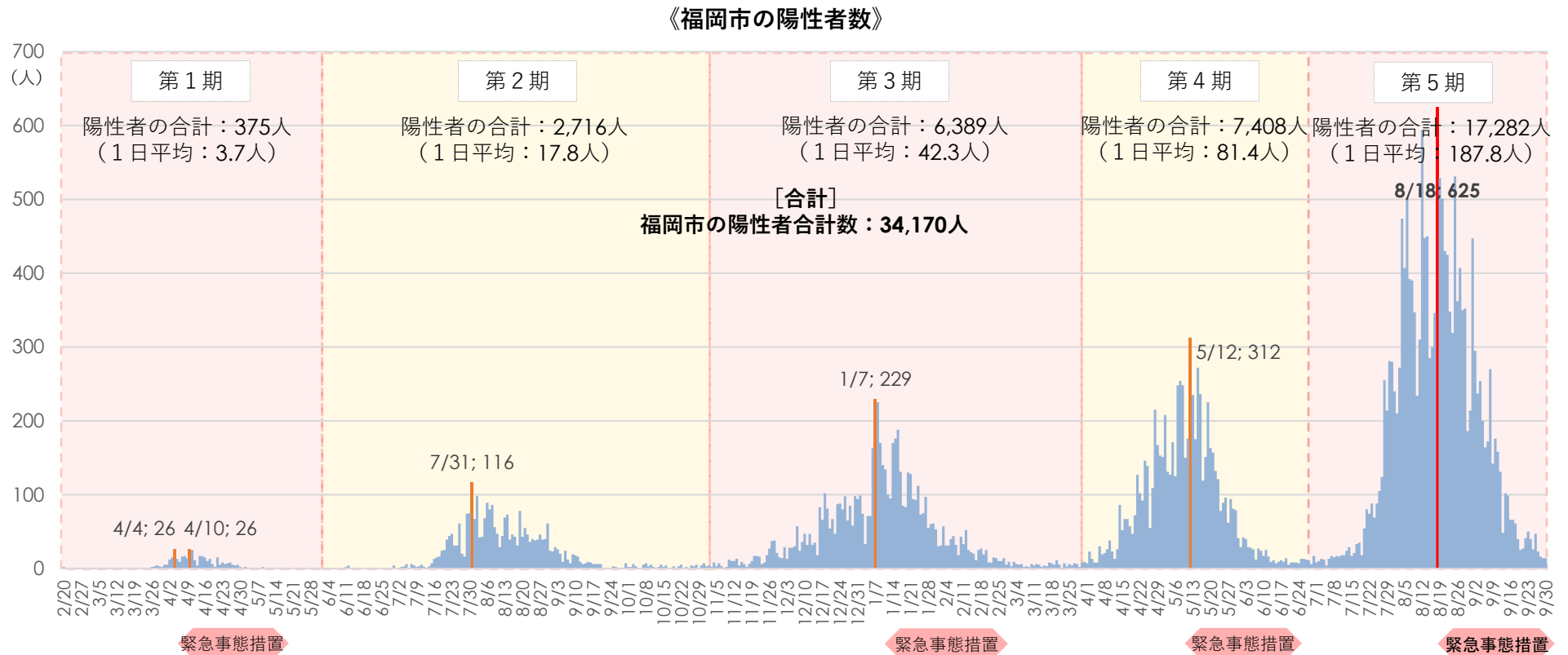
【施設】



区分	構造	敷地面積	建築面積	延べ面積	
病院本館	鉄骨鉄筋コンクリート造 9階建	6,028.78㎡	2,598.50㎡	13,930.74㎡	
				B1F	2,548.17㎡
				1F	2,272.65
				2F	1,738.91
				3F	1,636.52
				4F	1,113.09
				5F	1,072.52
				6F	1,071.08
				7F	1,071.08
				8F	1,071.08
				9F	319.65
RF	15.99				
救急診療棟	鉄骨造4階建	—	391.80㎡	1447.06㎡	
				1F	376.00
				2F	350.23
				3F	350.23
				4F	330.66
				RF	39.94
ポンプ室	鉄骨造 平屋建	—	5.60㎡	5.60㎡	
給排気塔	鉄筋コンクリート造平屋建	—	12.16㎡	12.16㎡	
看護師宿舎棟	鉄筋コンクリート造4階建 〔 食堂1F 看護師宿舎2F~4F 〕	—	136.18㎡	510.61㎡	
				1F	129.19
				2F	127.14
				3F	127.14
				4F	127.14
全体	—	6,028.78㎡	3,144.24㎡	15,906.17㎡	

2 新型コロナウイルス感染症禍における市民病院の対応の「検証」

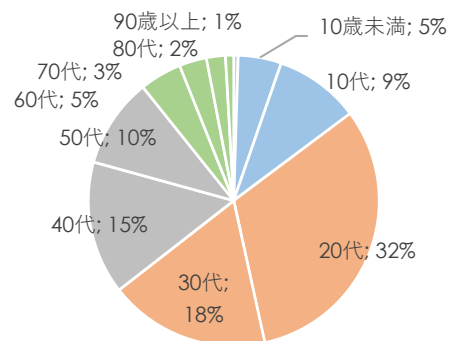
▷福岡市の陽性者数の推移



- ・福岡市で最初に陽性が確認された令和2年2月20日からの陽性者数の合計は、34,170人となっている。
- ・期別毎の1日平均では、第1期は3.7人、第2期は17.8人、第3期は42.3人、第4期は81.4人、第5期は187.8人となっている。

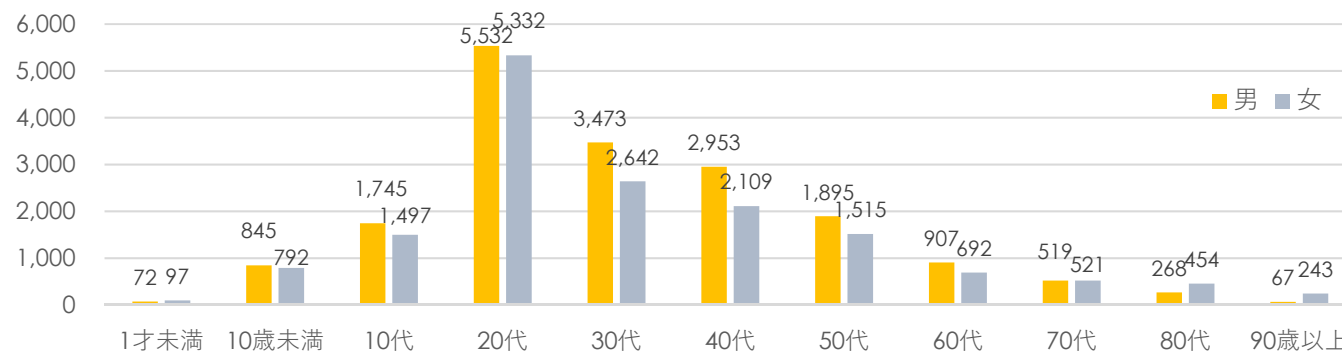
2 新型コロナウイルス感染症禍における市民病院の対応の「検証」

▷福岡市の期間別「年齢構成」「男女比」

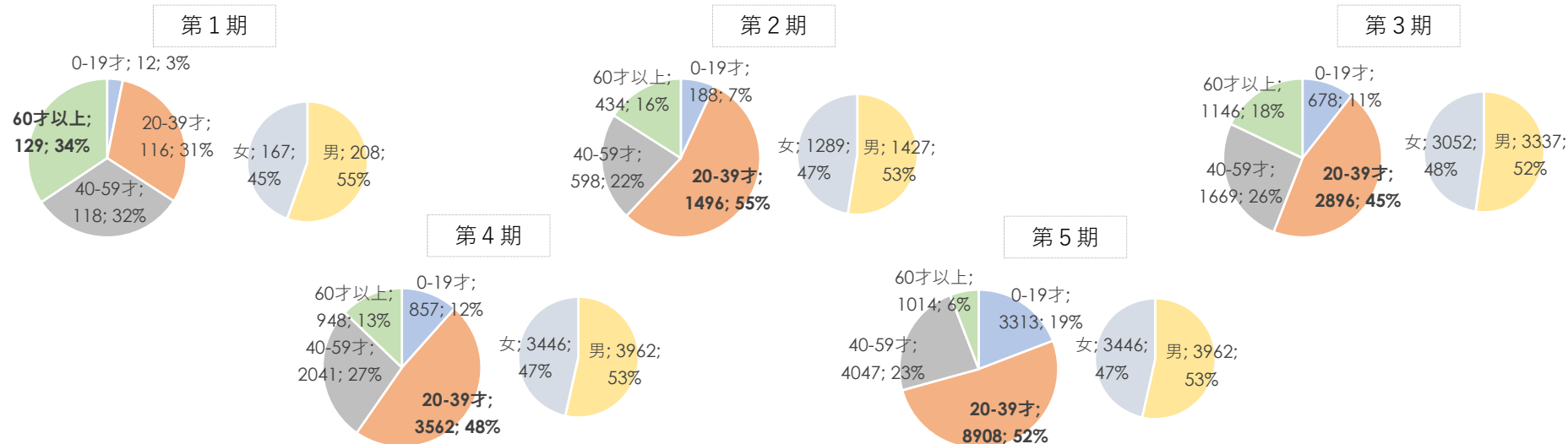


《年代別・性別の陽性者数と構成》

(R2/2/20からR3/9/30まで)



《陽性者の期間別の年代構成と性別比》



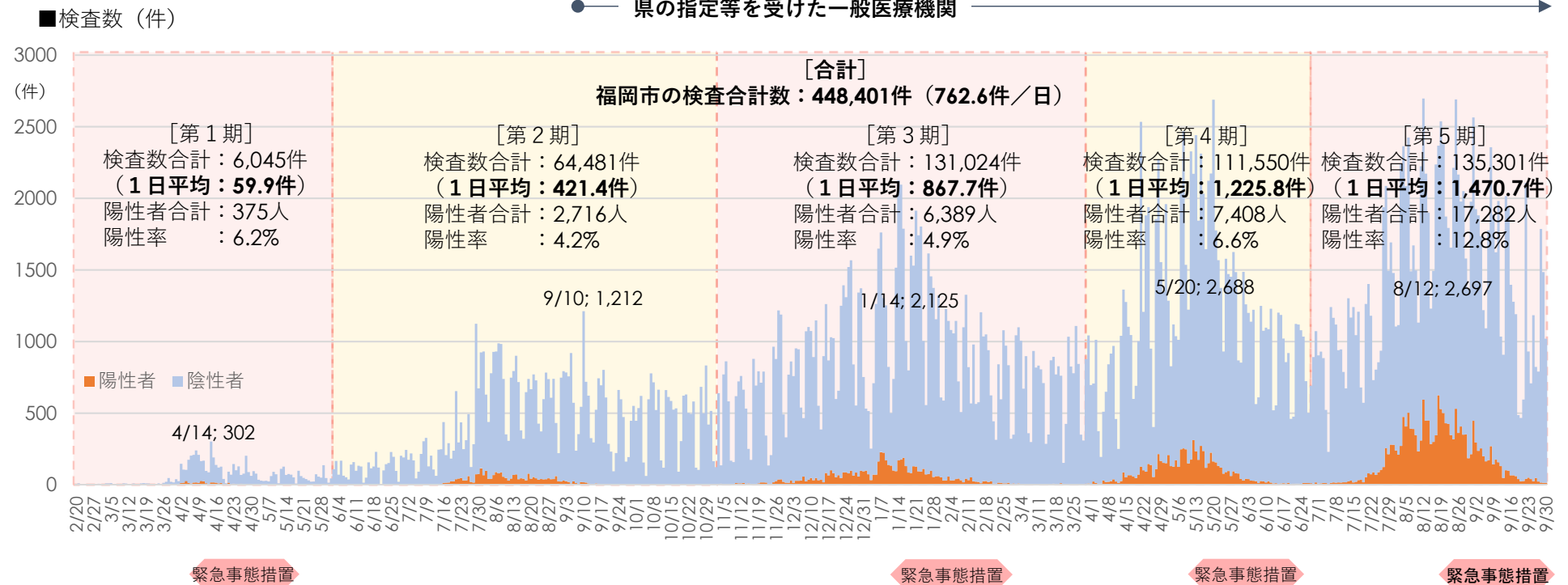
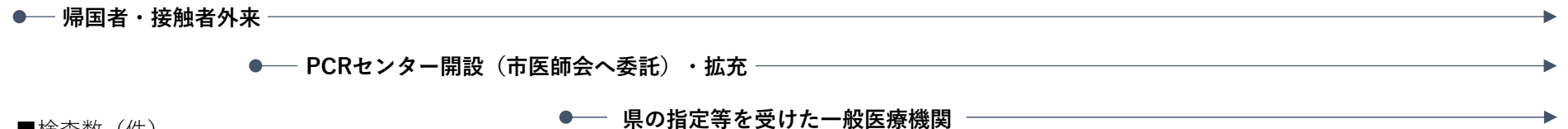
- ・年代別では、20代がもっとも多い32%となっており、30代以下で64%を占めている。
- ・期間別では、第1期は60才以上、第2期から第4期においては20から30才代の割合が高くなっている。

2 新型コロナウイルス感染症禍における市民病院の対応の「検証」

▷福岡市の新型コロナウイルス感染症検査数

《福岡市の新型コロナウイルス感染症検査数と陽性率》

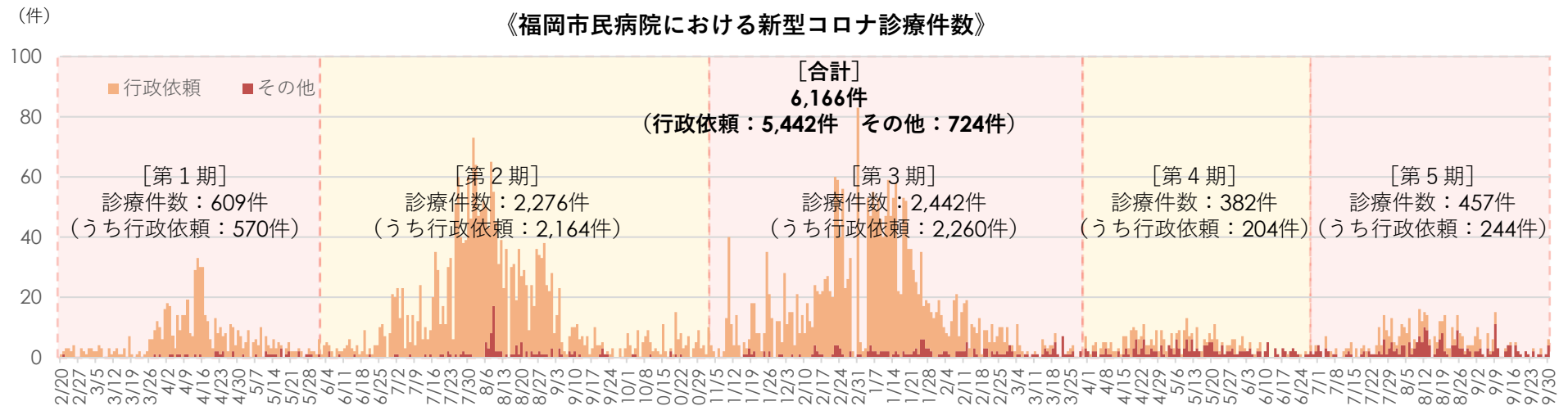
■市内の新型コロナウイルス感染症検査体制



- ・新型コロナ感染症の検査体制の変遷に伴い、検査件数は大きく変化していった。
- ・第5期の1日平均の検査数は約1,471件となっており、第1期の約24.6倍、第2期の約3.5倍となっている。

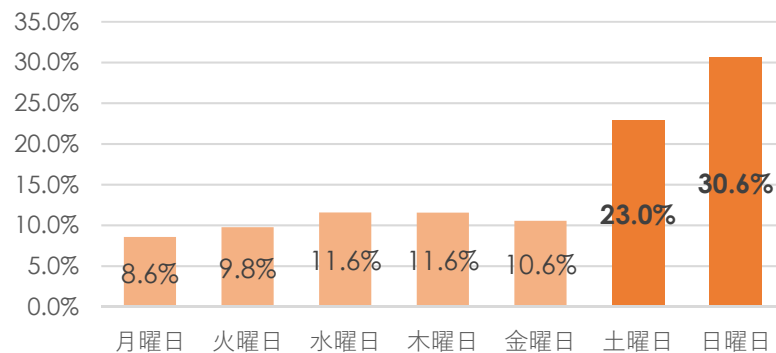
2 新型コロナウイルス感染症禍における市民病院の対応の「検証」

▷外来診療の状況



▲1月24日（指定感染症となる前）から福岡市からの要請に応じて、外来による新型コロナ疑い患者の受入れ開始

《帰国者・接触者相談センター相談件数に対する市民病院検査数の曜日別割合》

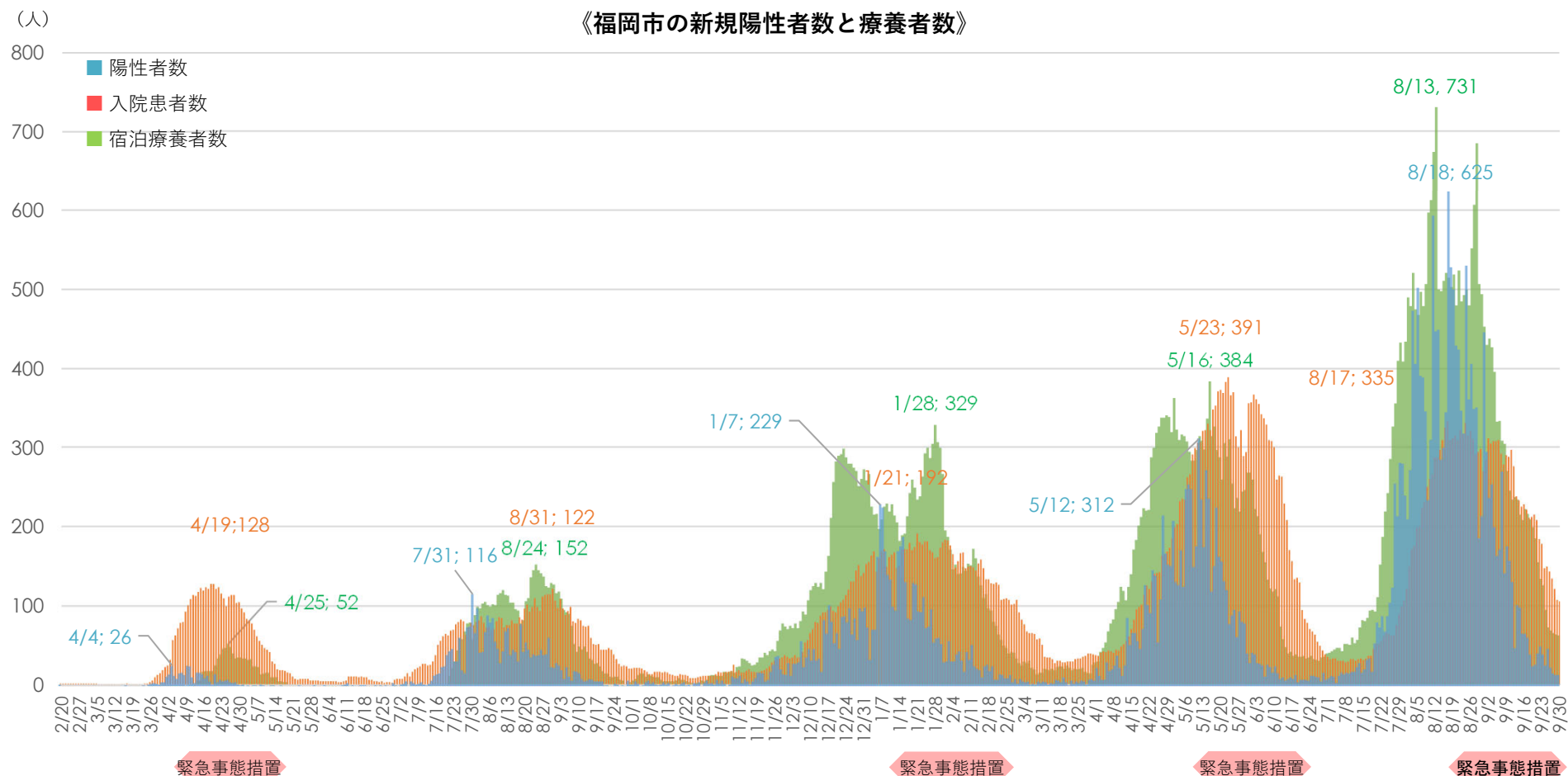


※R2年2月20日からR3年3月31日までの集計
「帰国者・接触者相談センター」は、R3年4月より
「新型コロナウイルス感染症相談ダイヤル（受診・相談センター）」に集約

- ・福岡市民病院では、感染発生初期から、帰国者・接触者外来として、外来による疑似症患者を含めた多くの新型コロナ患者の診療を行った。
- ・また行政からの依頼で陽性者の接触者のPCR検査も多数実施し、土・日・祝日の対応も積極的に行った。

2 新型コロナウイルス感染症禍における市民病院の対応の「検証」

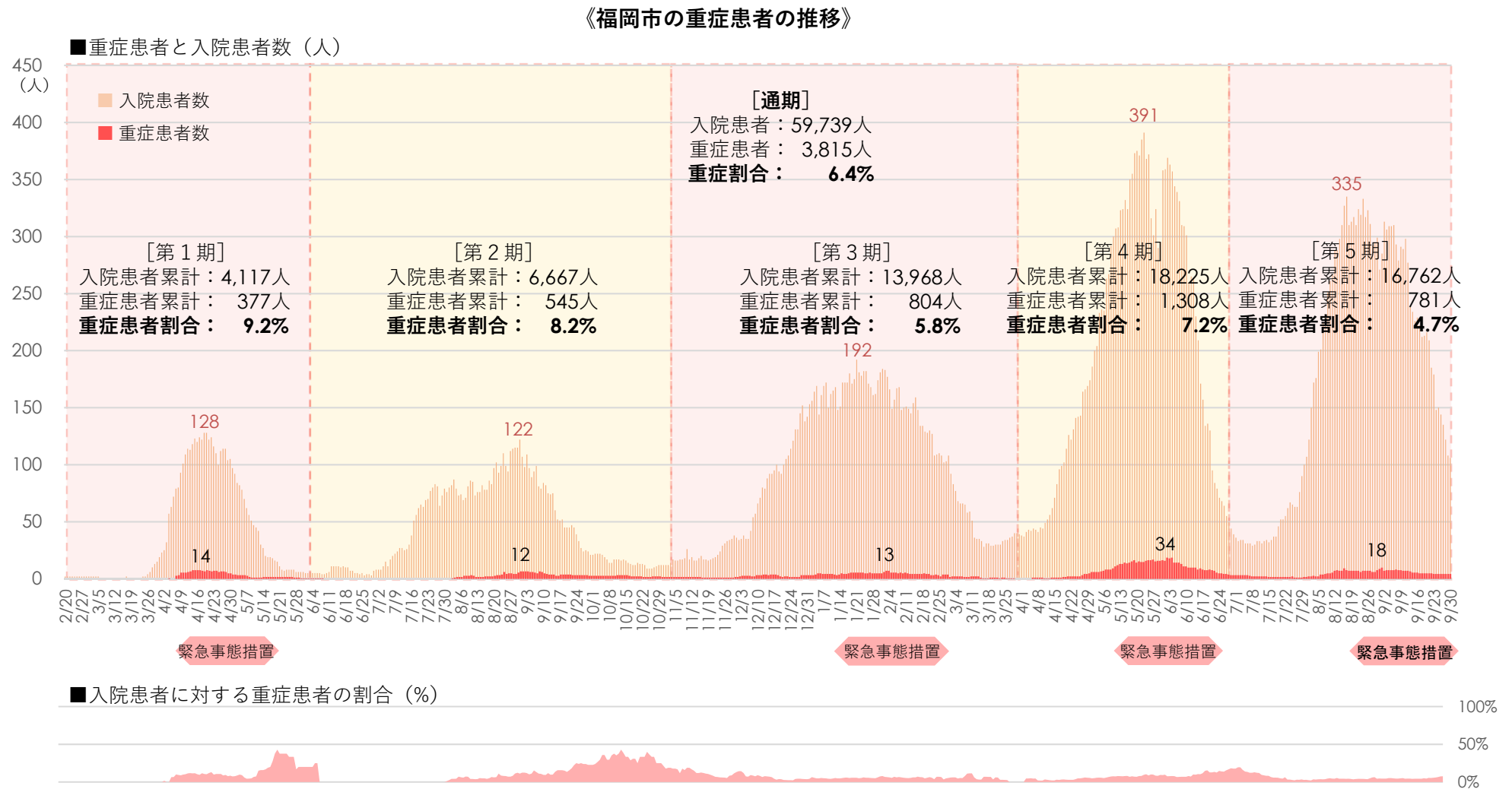
▷福岡市の新規陽性者数と療養者数の推移



- ・第1期・2期は、感染拡大初期に入院治療を中心としていたため、陽性者の増加に伴い入院患者数が急激に増加しているが、第3期は宿泊療養の枠がさらに確保されたこともあり、宿泊療養者が増加した。
- ・陽性者が減少に転じた後に、入院患者はそのピークを迎え、陽性者数・宿泊療養者と比べ、遅れて収束する。

2 新型コロナウイルス感染症禍における市民病院の対応の「検証」

▷福岡市の重症患者の推移



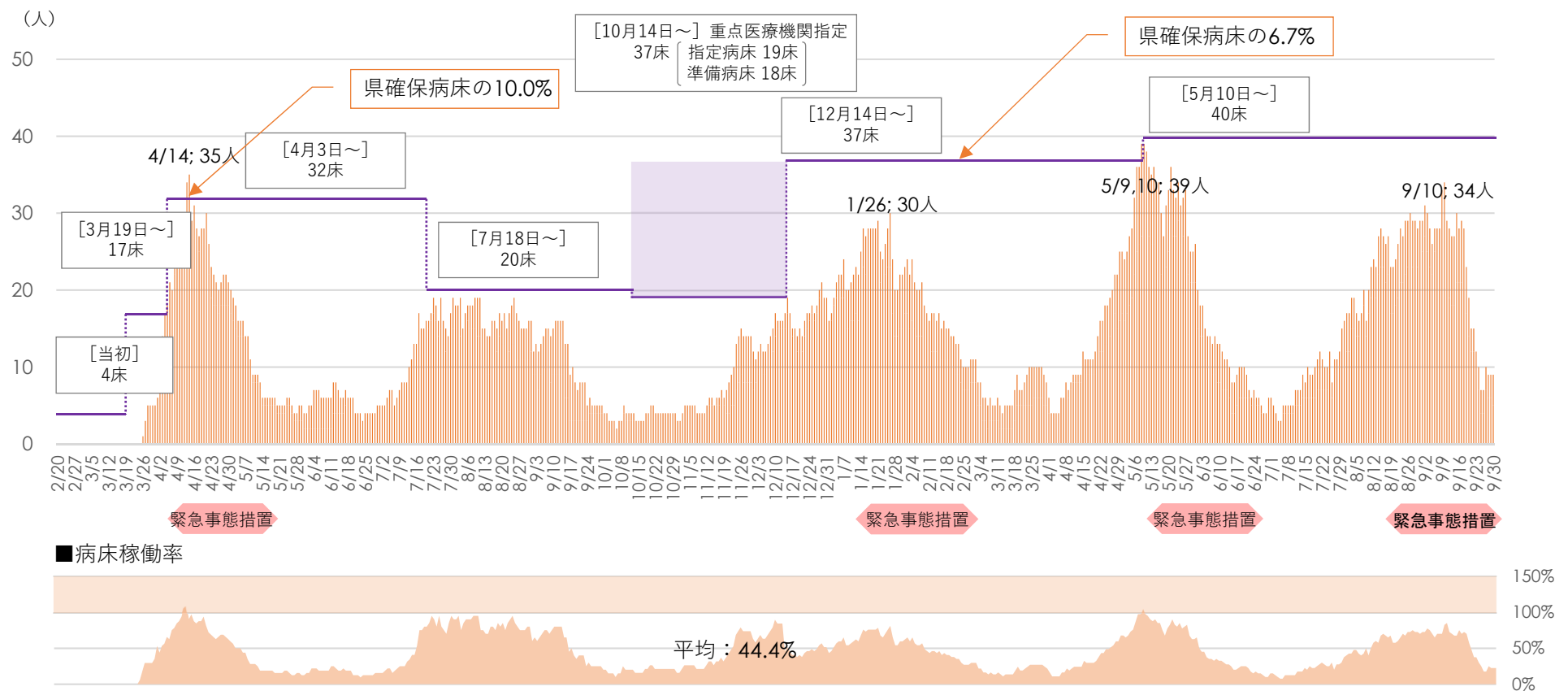
・各期の重症者数の最大は、第1期14人、第2期12人、第3期13人、第4期34人、第5期18人となっている。

2 新型コロナウイルス感染症禍における市民病院の対応の「検証」

▷市民病院における入院診療の状況

《福岡市民病院 新型コロナウイルス感染症（陽性者）の入院患者数と主な病床数の推移》

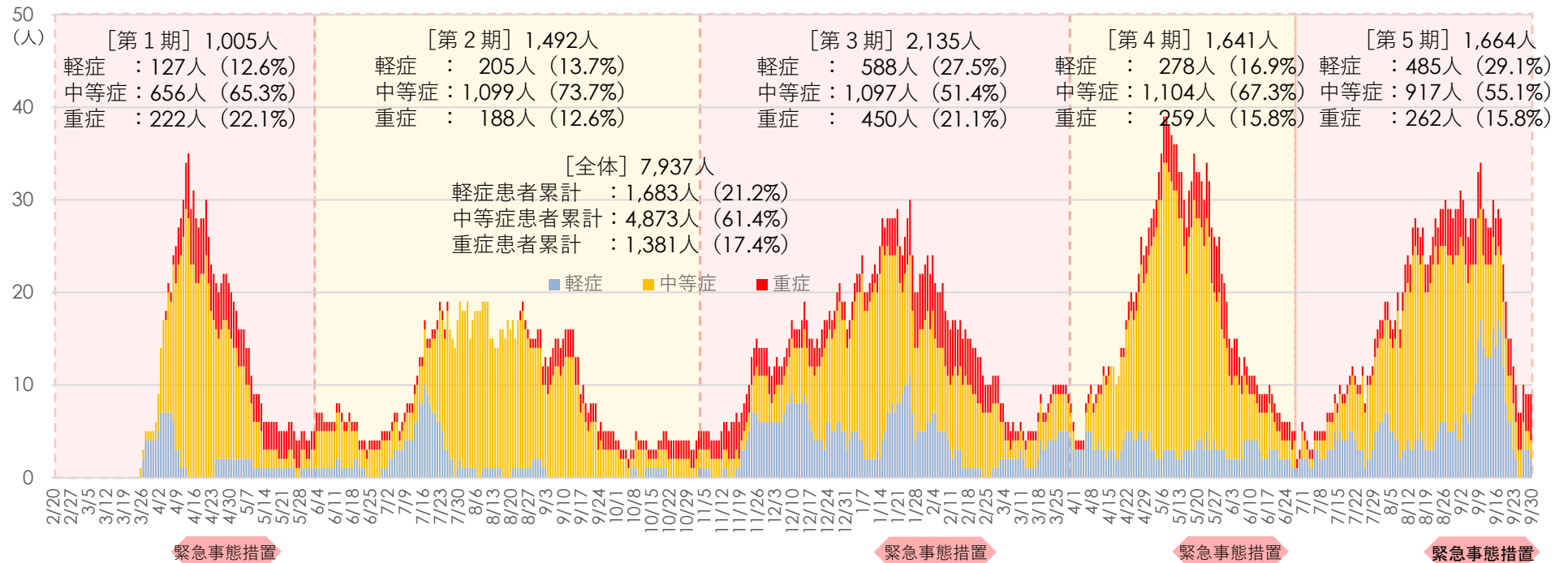
延べ入院患者数：7,937人



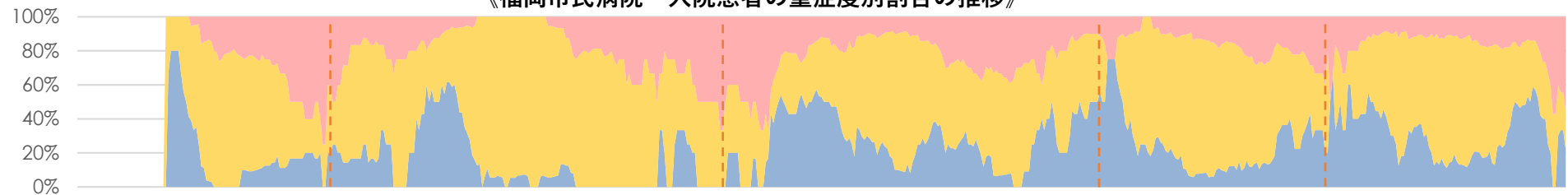
- ・福岡市民病院では、延べ7,937人の入院患者を受け入れており、病床稼働率は44.4%となっている。
- ・また当初は県確保病床の10.0%を担った。

2 新型コロナウイルス感染症禍における市民病院の対応の「検証」

《福岡市民病院 重症度別・入院患者数の推移》



《福岡市民病院 入院患者の重症度別割合の推移》

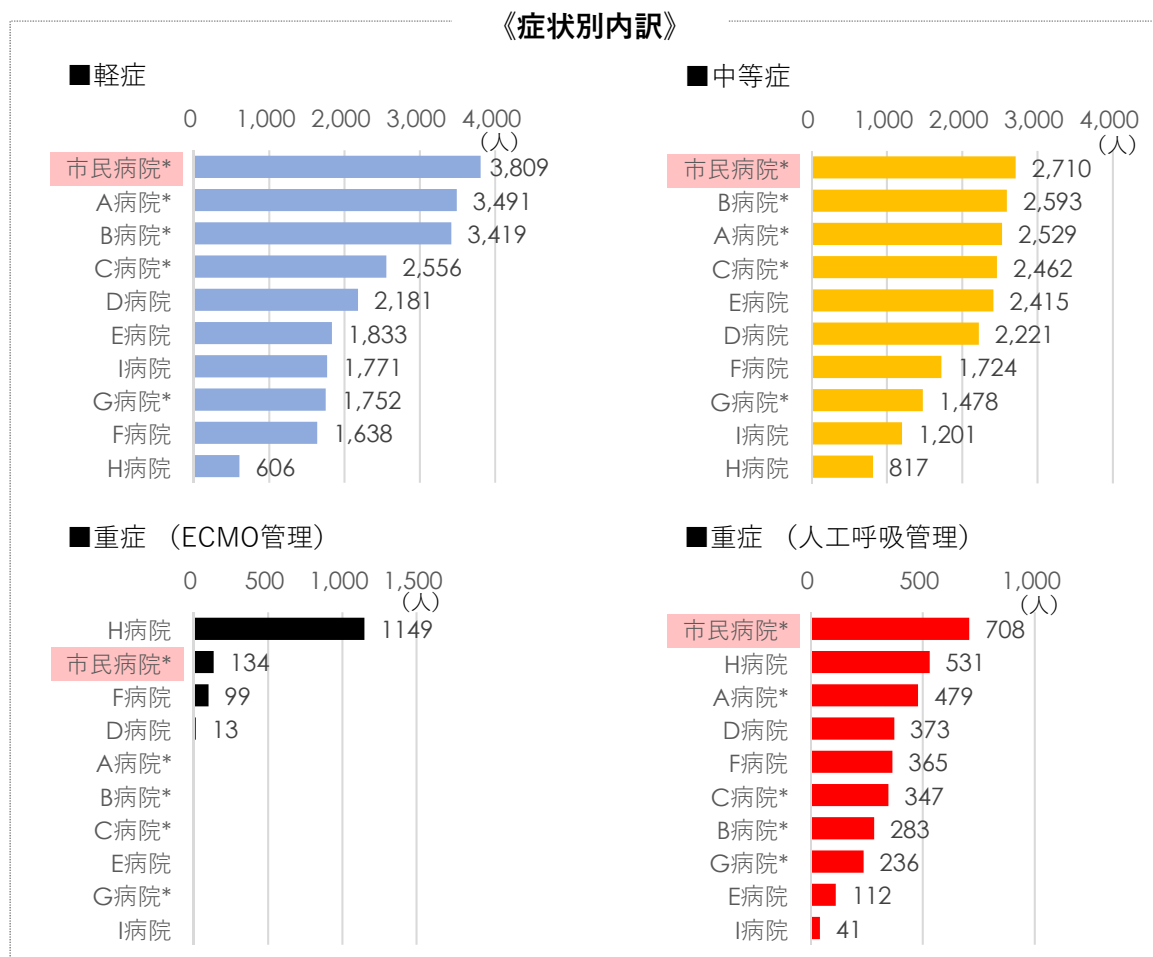
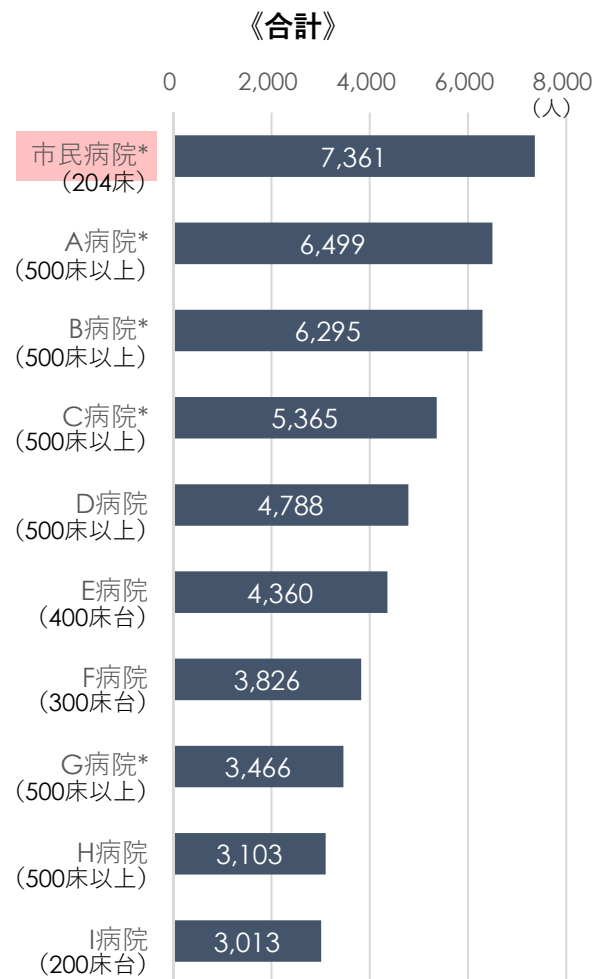


- ・福岡市民病院は、県による市内の即応病床が少ない時期においては、重点医療機関として軽症者も含めた患者の受入を積極的に行っている。
- ・一方で感染が拡大し、福岡市の入院患者全体が増加する時期においては、その役割は、中等症・重症患者を中心とした受入れとなっている。

2 新型コロナウイルス感染症禍における市民病院の対応の「検証」

▷福岡地区における新型コロナウイルス感染症患者の受入れ状況（受入れ上位10病院）

- ・対象期間は、令和2年4月1日から令和3年9月30日まで。重症度は日々の状態で判断
- ・「*」は感染症指定医療機関
- ・「福岡県新型コロナウイルス調整本部」のデータから作成

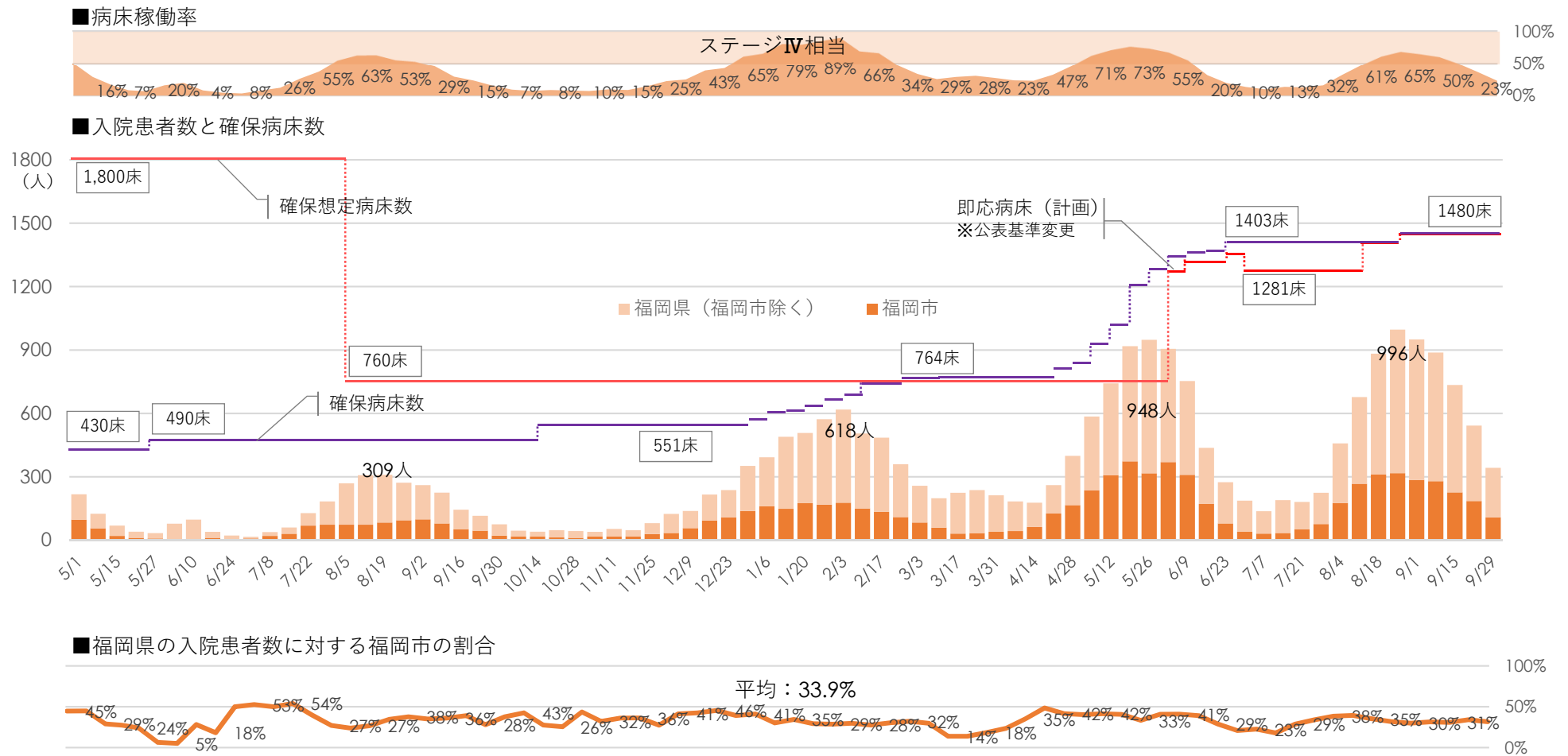


- ・福岡地区におけるコロナ患者の入院は、市民病院がもっとも受入れている。
- ・また重症度別でも、ECMO管理の重症者を除き、軽症・中等症・人工呼吸器管理の重症者のすべてで、もっとも多くの患者を受け入れている。

《参考》

▷ 福岡県における新型コロナウイルス感染症の動向 ※厚生労働省公表資料より作成

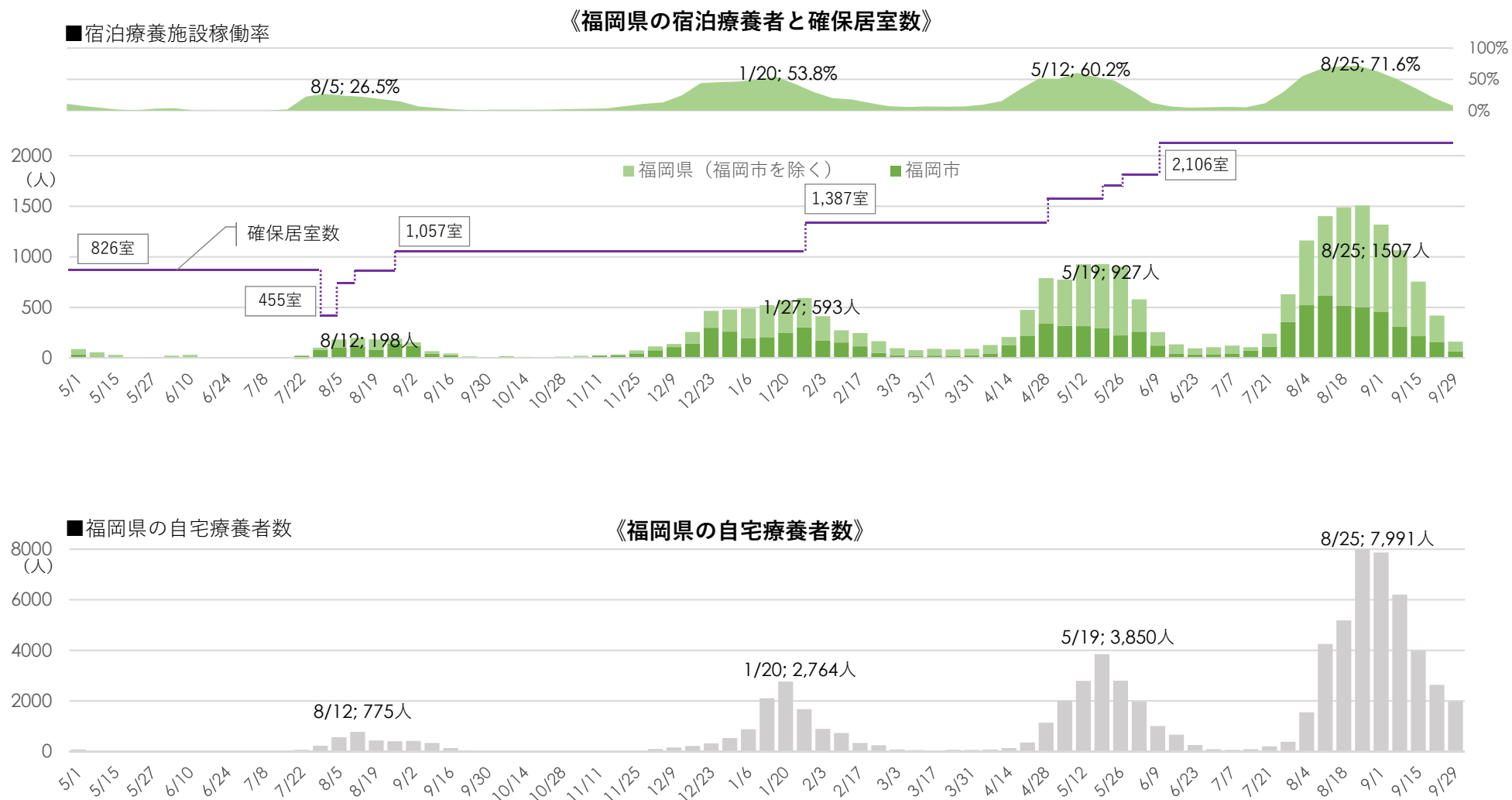
《福岡県の入院患者数と確保病床数》



- ・ 入院患者における病床稼働率は、令和3年2月3日に89.4%となるなど、医療機関に大きな負担がかかっていた。
- ・ 令和3年2月24日に福岡県の確保想定病床数である760床の病床を確保し、その後も病床の確保をすすめている。

《参考》

▷福岡県の療養者の動向 ※厚生労働省公表資料より作成



- ・ 自宅療養者の最大は8月25日の7,991人となっている。
- ・ 宿泊療養施設の稼働率は3月までは最大で約5割にとどまっていたが、運用の改善等につとめて、稼働率はやや上がっている。

《参考》

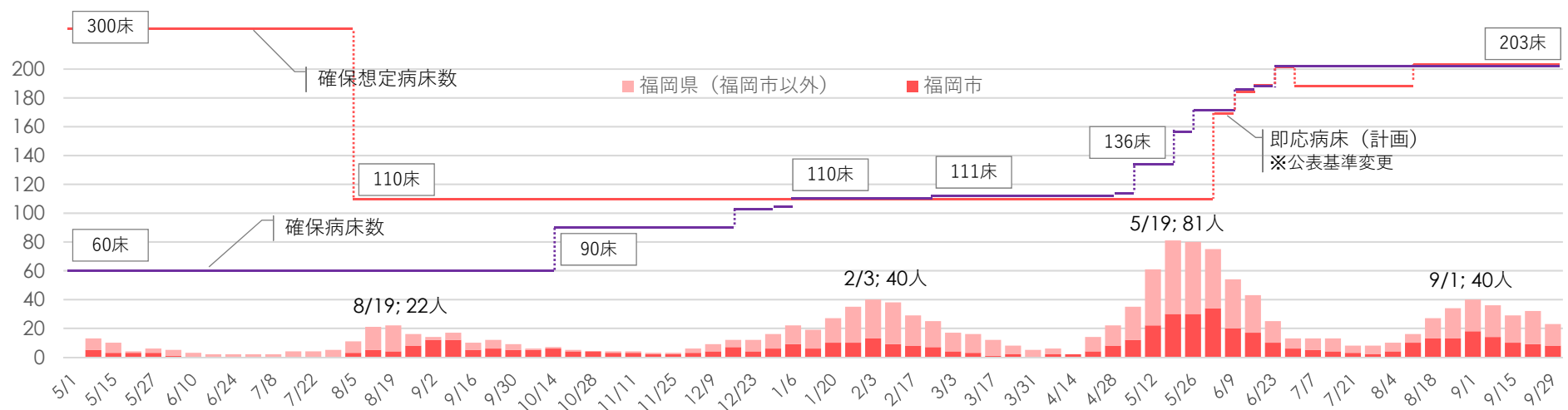
▷福岡県の重症患者の動向 ※厚生労働省公表資料より作成

《福岡県の重症患者数と確保病床数》

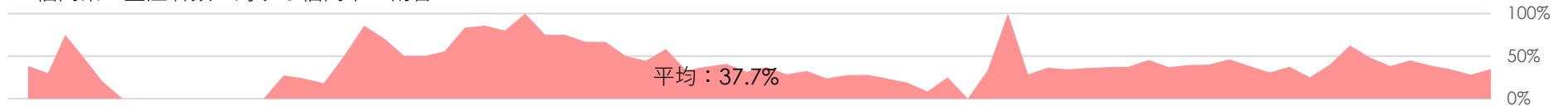
■重症患者病床稼働率



■重症患者数と確保病床数



■福岡県の重症者数に対する福岡市の割合



・県では当初60床の重症用病床を確保。その後、10月、12月に確保病床を増加し、1月に想定病床数である110床を確保。